特集

度会町を第2の故郷（ふるさと）に

空き家、地域、移住者 それぞれの思いと縁をつないで

【問合先】役場みらい安心課 ☎62-2423

近年、「田舎でのスローライフ」、「豊かなプライベートタイム」に憧れて全国で移住を考える人、空き家を求める人が増えています。さらに、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、「新しい生活様式」が浸透したことで、今、自分が心地よく暮らせる場所を求めて移住を決断する人も多くあります。

一方で地方においては、家の所有者が亡くなる、施設に入所するなどの理由で、放置されている空き家が多く存在し、建物の劣化による倒壊の危険、地域の景観の悪化などの問題が発生しています。

度会町においても同様で、不要となった空き家をこのまま放置することで、さらなる状態の悪化が懸念されています。

移住先としての度会町

自然豊かなわが町「度会町」は、心地よく暮らせる移住先として最適な場所であり、町民の皆さんも、度会町を住み良い町として、お勧めできるのではないでしょうか。

しかしながら、町内を見渡してみると、まだまだ活用してもらえるような空き家が多くあるにもかかわらず、その活用実績は少なく、移住先としての受け皿が整っていない状況にあります。

また、就職や進学などで、度会町から町外、県外へ移住される人も多く、空き家が増えていくことが予想されます。

そこで、町では、人口減少を食い止め、地域を活性化させる目的で、移住・定住を促進するための補助金を交付し、また使われていない空き家を有効活用する「空き家バンク制度」を実施しています。

すでにこれらの制度を活用し度会町に移住を決め、また、空き家を利用されている人は、どういった思いから行動を起こしたのでしょうか。それぞれのストーリーをのぞいてみましょう。

1 空き家×利活用
「古き良き空き家」をリノベーション 第2の人生は度会町で
永田 虎次さん

2 空き家×移住
憧れの田舎暮らし
小野 良樹さん
空き家を購入し、移住を決意。憧れを胸に度会町で巡り合った特別なストーリー。

3 移住×開業
度会町で夢をかなえる
西川 真衣さん
地域との「つながり」を大切に。豊かな自然の中で、長年の夢であったお菓子店開業。

4 空き家対策を考えてみませんか

5 度会町があなたの「わたらいふ」を応援します

1 空き家×利活用

「古き良き空き家」をリノベーション 第2の人生は度会町で

永田 虎次さん

完成を祝う3人。左から北村さん、永田さん、山本さん

古民家の良さを残し、現代でも通用するよう改築するといった行為は、リノベーションと言われ、テレビやインターネットでも、建築士や芸能人の手で施される姿が取り上げられ、世間では憧れとなっています。

しかしながら現実は、金銭面の課題はもちろん、誰もが運よく古民家に巡り会えるわけではありません。多くの人が一つのバラエティ番組として見られているのではないでしょうか。

ここで紹介する永田虎次さんは、度会町空き家バンクから、明治時代に建築された空き家を探し出し購入。そしてリノベーションしました。

施工を担当したのは、町内で建築業を営む北村幸一さん（坂井）と山本恒夫さん（注連指）。「古き良き素材を活用し、最大限その特徴を生かした建築物」を合言葉に、作業中も永田さんと話し合いを重ね、完成の日を迎えました。

古民家であることが、購入の決め手だったかを尋ねると「もちろんそれもありましたが、透き通った川を眺め、仲間とともに第2の人生を謳歌できる場所を探していた」という、度会町にとって嬉しい答えを返してくれた永田さん。

地域でも、永田さんのリノベーションは話題で、様子を覗きに来ていた皆さんと、すでに仲間と呼び合える関係が築かれていました。

空き家を利活用し、はじまったばかりの永田さんの「わたらいふ」。地元で獲れるモクズガニやアユで、バーベキューをする日は、そう遠くないようです。

before

after

リノベーションで生まれ変わった玄関

Watarai is the Second home

2 空き家×移住

憧れの田舎暮らし

小野 良樹さん

家の思い出を話す中野さん（左）と、それに耳を傾ける小野さん（右）

常に変化し続けるマーケティング業界。ここ10年間にもさまざまな変化が起きましたが、現代のマーケティングには、ストーリーが重視されていると言われています。何か特別な物を買うに当たって、それを買うチャンスがどう自分に巡ってきたか、過去の所有者など、そういった部分に感銘を受け、購入を決断した経験をお持ちの人もいるのではないでしょうか。

昨年の春、町内の空き家を購入し、移住された小野良樹さんも、特別なストーリーに巡り合ったひとりです。

以前から田舎暮らしに憧れを抱いていた小野さんが、度会町役場を訪れたのは令和２年２月。

そこで見たリストに、イメージしていた物件があったこと、また、その日に所有者である中野裕之さん（大野木）と出会い、空き家を案内してもらえたことは、またとない運命的なマッチングでした。

また、２人はすぐに意気投合し、まるで古くからの友達のような仲に。「購入はその日に決断した。迷いはなかった」と、小野さんは当時を振り返って話してくれました。

中之郷という土地で、田舎暮らしだけでなく、新たな出会いを手にした小野さん。家で一番のお気に入りを尋ねると「年代ものの暖炉。冬場でも半袖で過ごせるくらい」と答えてくれました。その隣には、笑顔でうなずく中野さん。

この出会いが今後の田舎暮らしを支えてくれます。

お気に入りの暖炉

買い主×売り主

家の改修はDIYで楽しむ

売り主の声

中野 裕之さん

そこに人がいなければ、家はすぐに傷んでしまいます。長年お世話になった家を、形として残したいという思いがありました。小野さんという信頼の置ける人に、バトンを渡すことができて良かったです。

3 移住×開業

度会町で夢をかなえる

西川 真衣さん

優しい笑顔の西川さん。お店の雰囲気にその人柄が表れています。

大切にしたい
地域との「つながり」

町の移住定住補助金制度を活用し、度会町に移住された西川真衣さん。昨年、大野木に、長年の夢であったお菓子店「お菓子のじかんルシエン」を開業しました。

人口が密集する場所ではなく、自然豊かな度会町を選んだ理由は、双子の野ネズミが主人公の絵本「ぐりとぐら」をイメージとしたコンセプトにありました。

ご近所付き合いなど、地域に溶け込めるかという心配は、移住者の大きな不安要素となります。西川さんにとってもそれは例外ではなく、商工会や役場に何度も足を運び、リサーチは十分に行ったものの、開業へ向け準備を進める中で、不安は積り、眠れない夜もあったようです。

そんな不安を跳ね除けるかのように、あっという間に地域の皆さんと距離を縮めることができたのは、西川さんの人柄と楽しい会話に魅力があったからではないでしょうか。「開業前から、温かく迎え入れてもらえた。皆さん、おしゃれをしてお菓子を買いに来てくれるんです」と、声を弾ませながら話してくれました。

地元産の食材を積極的に使うのは、鮮度とその味へのこだわりは勿論のこと、地域との「つながり」を大切にしたいから。休日には新商品開発のため、市場や農家を訪ね歩く日もあるようです。

ハロウィーンや、1周年記念イベントを控え、お忙しい中、今後の展開について伺うと「町外からも訪れてくれる人が増えました。いずれは、店内に飲食スペースを開放し、お客さん同士が交流できる場を作りたい。ルシエンから度会町の魅力を発信できたら」と、教えてくれました。

西川さんの活躍に期待が高まります。

お菓子のじかん RUCIEN

☎0596-68-9092

最新情報は、インスタグラムから

Watarai is the second home

4 空き家対策を考えてみませんか

度会町 空き家バンク制度

町では、人口減少に伴い、増え続ける空き家を有効活用し、地域活性化につなげる狙いから、2年前に「度会町空き家バンク制度」を創設しました。住んでいない・使っていない空き家を町ホームページなどで紹介し、度会町で住まいを探している人へ情報提供するシステムです。買い手・借り手を幅広く全国から募り、空き家バンクを活用して都市部からの定住促進に取り組んでいます。

平成28年度に実施した、「空き家等実態把握調査」において、町内に約200件の空き家が存在していることが分かりました。その内、9件が空き家バンクに登録され、6件の契約が成立しています。

また、平成30年度実施の「空き家所有者等のアンケート調査」の結果によると、今後の利用予定（グラフ1）について、「特に積極的に利用する予定はない」（42.4％）や「具体的に決まっていないが、売却や賃貸で利用したい」（28.8％）が高い割合を占めています。困っていること（グラフ2）については、「管理が負担になってくる」、「改修や解体の費用が不足している」と多くの人が回答しています。

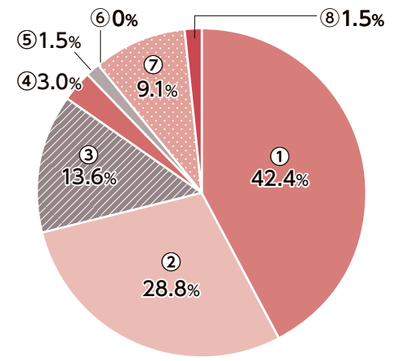
現在、空き家バンクへの登録物件数は、3件と少なく、県内外から多数寄せられる、空き家の利用希望者の声に応えきれていない状況です。空き家をお持ちの皆さんは、ぜひ、一度登録を考えてみてください。

空き家除却への補助

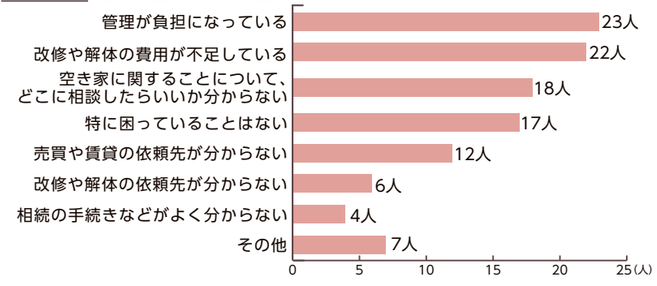
耐震性のない木造住宅の空き家を解体し、除却する際に工事費の23％（最大20.7万円）を補助として受けられます。

空き家除却についてのお問い合わせは
役場建設水道課 ☎62－2420

グラフ1 建物（空き家）もしくは敷地の今後の利用予定



グラフ2 建物（空き家）で困っていること



空き家バンク登録 Q&A

過去2年間で空き家バンクに寄せられた質問にお答えします。

Q. 登録にかかる費用は？
A. 無料です。

Q. たんすやベッドなど家財は、そのままでも良い？
A. そのままでも構いません。家財も含めて物件とすることができます。

Q. 部屋の掃除、庭の手入れは必要？
A. 定期的な手入れは必要ありません。

Q. 間取り図は必要？
A. 町が指定する業者が物件調査に伺い、間取り図を作成します。

Q. 見学に同行は必要？
A. 見学の案内は、町職員が代行します。

Q. 利用希望者との交渉は、自分自身で？
A. 不動産業者の協力を得て行う、間接型の交渉も選択できます。

Q. 売買ではなく、賃貸としての登録は？
A. 売買、賃貸どちらでも登録できます。

5 度会町があなたの「わたらいふ」を応援します

民間企業が行った移住に関するアンケートにおいて、回答者の5割近くが、地方や郊外への移住に興味があると答えています。また、三重県が発表した県外からの移住者数は、増加傾向にあり、令和2年度には年間で、500人を超えました。

数字を見ても分かるように、地方移住への関心は、年々高くなっています。

度会町移住・定住補助金制度

町では、人口維持対策の一つとして、また地方回帰に対するニーズを踏まえ、移住・定住を促進する目的で、令和元年度より「度会町移住・定住補助金制度」を創設しました。

居住を目的として町内に住宅を取得し、5年以上定住される人に対し、補助金を交付しています。特に子育て世帯の移住・定住を促進するため、移住者のうち、中学校卒業までの子どもを扶養している世帯には補助金の上乗せがあります。

また、移住者だけでなく、交付要件を満たせば、町内在住者に対しても、定住補助金が交付されます。

制度創設から2年間で、移住者の16世帯、在住者の11世帯、計27世帯が、この制度を活用し、それぞれの「わたらいふ」を開始しました。

交付要件など詳しくは、役場みらい安心課へお問い合わせください。

移住ポータルサイト「わたらいふ」でも情報を随時更新中です

インタビューをさせていただいた3人は「度会町は自然豊かで、人が優しい」と答えてくれました。これは、移住・定住補助金、また空き家バンクを活用いただいた、ほとんどの皆さんが言ってくれる言葉です。

都会での暮らしが長かった人が、度会町のような田舎での生活を求めているということは、雑誌やテレビでよく目にしますが、私たち町民にとっては、町内にそびえる獅子岳、牛草山も、町内を流れる宮川、一之瀬川も、生まれ育った時から隣り合わせにあり、それらとともに生活することは、当たり前のものとなっています。

自然豊かなゆえに台風や大雨時には、土砂災害や洪水を心配する日もあります。

買い物や通院に不便さを感じる日もあります。

都会だったらと、他市町を羨ましく思う日もあります。

しかし、皆さんが度会町を愛し、住み続け、移住者を受け入れてくれるからこそ、「度会町に決めて良かった」という言葉を聞くことができます。中には「隣のおばあちゃんが野菜をくれた」「さっきまで泳いでいたアユを食べれるなんて」と、目を輝かせて話してくれた人もいます。

今後、お勧めしたい町「度会町」が、移住を希望する人たちにとって、第2の故郷となるよう、受け皿となる空き家バンクへの登録に、ご協力をお願いします。

今、度会町では、空き家が求められています。

Watarai is the Second home

【問合先】役場みらい安心課 ☎62－2423